



図 1: William Smith Clark, PhD 1826-1886

その(1)で Boys Be Ambitious 「少年よ、大志を抱け」(以下 BBA とする) には後半部の言葉があったのではとか、原文の真意についても諸説があることを紹介しました。ところが信頼できる資料を調べていくと、その日の場面では前述のような言葉は付加されなかったようなのです。学生の毎日は英語漬けではありましたが、それでも大半が初学者の彼らには上述の言葉は難解すぎる英文でしょう。ひょっとすると Clark 先生は日頃から冠頭の BBA を繰り返し学生に伝え、暗唱させ、その都度後半部を聖書などから引用して様々に付け加えて伝授したのかもかもしれません。一方もう少し信頼すべき資料が見つかりました。それは 1915 年米
国国際博覧会に日米間の特記すべき交流記事を掲載する際、北海道開拓史を紹介する上で B B A だけでは米国人にさえも誤解されやすいとの配慮から注釈的に付加されたとの意見であります。

(その3に つづく)